

静岡県伊豆市が職員向けにやさしい日本語研修を実施

令和3年7月8日、伊豆市は、市役所別館2階大会議室で市職員向けにやさしい日本語研修を行いました。やさしい日本語は、難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮した分かりやすい日本語のことで、外国人、子どもや高齢者、障がいのある人など、さまざまな人に役立つ表現方法の1つです。

この研修は、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会(以下「組織委員会」という。)が定める「東京2020公認プログラム」に認証されている事業の一環です。「東京2020公認プログラム」は、「東京2020参画プログラム」の1つで、東京2020大会の機運醸成および大会以後のレガシー創出に繋がる活動に対して、組織委員会が認めるものです。

研修の目的は、東京2020大会自転車競技(トラック・レース/マウンテンバイク)開催地として、東京2020大会の3つのコンセプトの1つである「多様性と調和(ダイバーシティ&インクルージョン)」への理解を深めるとともに、やさしい日本語でのコミュニケーションを学ぶことで、定住している外国人や聴覚障がい者を始め、子どもから高齢者まで幅広い層への市民サービスの向上を図ることです。

研修は、午前と午後の2回に分けて行われ、約20人の職員が参加しました。講師は、静岡県やさしい日本語アドバイザーを務める聖心女子大学日本語日本文学科准教授の岩田一成氏で、オンライン会議システムを用いて行われました。岩田氏から、やさしい日本語の使用が国内で広がっていること、長文は箇条書きにすること、二重否定を使わない、相手の話は笑顔で落ち着いて聞くことなど、書き言葉・話し言葉でのやさしい日本語の工夫点の説明を受けました。また、職員同士で分かりにくい日本語をどのようにやさしい日本語に変換できるかなどのコミュニケーションの実践にも取り組みました。

参加した職員からは、「大会当日だけでなく、日頃の業務にもやさしい日本語を生かしていきたい。」といった声が聞かれました。

伊豆市役所の担当者は「オリンピックの自転車競技は、7月26・27日に伊豆マウンテンバイクコースでマウンテンバイク、8月2~8日に伊豆ベロドームでトラック・レースが行われ、パラリンピックの自転車競技は8月25~28日に伊豆ベロドームでトラック・レースが行われた。競技の開催期間中、来訪される全ての方に伝わるように、丁寧な案内を心掛けた。」と話しています。

また、やさしい日本語研修に参加し、自転車競技に携わった職員からは、「不得意な英語を使うより、やさしい日本語で話した方が伝わった。」「伝えるという気持ちが大変だと感じた。」との感想があり、観戦に来た市民や外国人からは、職員について、「工夫をして一生懸命伝えようとしてくれ、私たちの話に耳を傾けてくれている様子だった。」といった声がありました。

今後について、伊豆市の担当者は、「外国人だけでなく、子どもやお年寄り、障がい者、一般市民に対しても、やさしい日本語や分かりやすい言葉で話すことを意識付け、日々の業務に役立てて市民サービスの向上を図りたい。」と話しています。



問い合わせ先

伊豆市役所産業部観光商工課

電話 : 0558-74-2020 FAX : 0558-72-9909